

磐田市自治会連合会（静岡県）

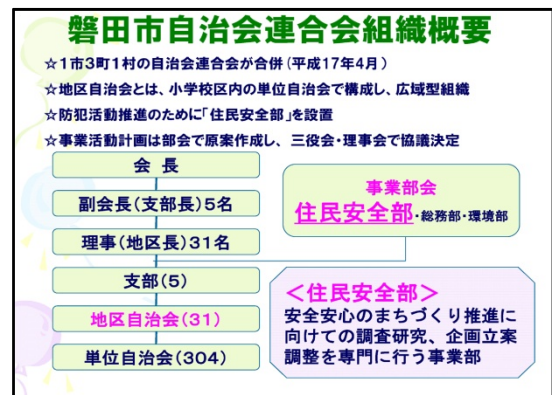
静岡県磐田市自治会連合会会長の杉田です。発表に当たりまして、アシスタント担当いたします連合副会長の村上と市職員の月花です。よろしくお願い申し上げます。



団体の概要

静岡県磐田市は、平成 17 年4月に1市3町1村が合併し現在に至っており、静岡県西部を流れる天竜川の東側に位置しています。農業、工業ならびにスポーツが盛んで、J1 サッカーのジュビロ磐田のホームタウンにもなっている町です。

自治会連合会の組織概要についてですが、行政合併に合わせ、平成 17 年4月に自治会連合会も合併し、304 の単位自治会を有する組織体になりました。合併にあたり、特筆すべき組織的なところは二つあります。一つ目は、自治会の活動が今後小学校区等を中心にした広域型に進んでいこうと考えると、小学校区の範囲で複数の自治会が協力し合う協議会的な組織として「地区自治会」という組織を設けました。二つ目は、自治会連合会の方針が、それぞれの単位自治会まで浸透していくために、本部の方針をより正確に、より具体化していく意味で事業部会を三つ設けました。そのうちの一つ、「住民安全部」という専門事業部が自主防犯活動において大きな働きをしています。

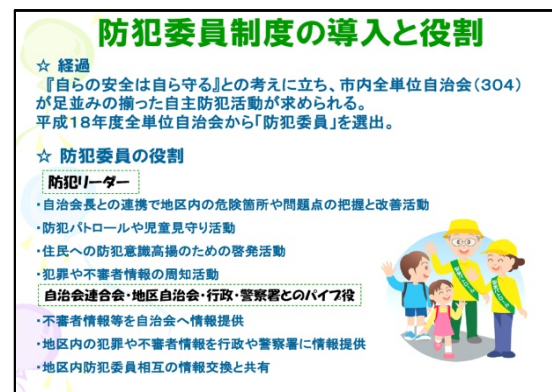


なぜ自治会連合会が主体となって防犯活動を進めていくのか。私ども自治会連合会の活動は、「安全で、安心で、住みよいまちをつくる。だれもが安心して住める磐田市をつくっていく。」です。この考えが基本的な方針です。この方針に基づいて、自らの安全は自ら守る。この自主防犯意識を高めていきながら、実際に活動を進めていこうという思いが一つあります。

それから、全市的な取組を推進するためには、より多くの市民の皆さんの参加を促していきたい。みんなが活動しようという観点で考えると、それぞれの地域を束ねている自治会がその気持ちにならなければだめだ、自治会がその役割を担おうということになったわけです。

自治会が主体となる防犯活動を進めていく上で、自治会連合会としては二つの新たな取組を始めました。一つ目は、平成 18 年から 304 の単位自治会から各1人、防犯委員を選任する制度を導入しました。防犯委員の方々は防犯リーダーとして地域で活動する役割を担っています。

二つ目は、地区自治会の中に、地域に合った自主防犯ネットワーク組織として、地区安全会議を設置し、自治



会を始め、現役世代の子どもさんのお世話をする人、PTAの役員とか、いろいろな方々が組織としてこの地区安全会議に参加しています。自治会連合会で方針を出しそれを全域で取り組む、ところが、それぞれの地域によっていろいろな地域事情があります。地区安全会議では、地域のいろいろな事情を加味し、互いの組織を認め合って、「地域流」の防犯活動を進めていくための組織体になっています。

自治会連合会の防犯活動

自治会連合会としてどういう活動をしているかというと、主には地区安全会議の活動支援です。市内31地区自治会で構成しつつある地区安全会議が開催され、お互いに情報交換を行い、自治会連合会として事業や活動の方向性を示しています。

また、パトロールベストや腕章など防犯グッズをそれぞれの安全会議に提供、貸与しています。それから、活動のレベルを上げていくという点で教育研修活動を定期的に行っています。特に防犯委員に対して、役割や活動について説明し、犯罪・不審者情報等の情報提供を行っています。一方、青色回転灯パトロール活動の実施者証の講習会を自治会連合会が中心になって呼びかけ、磐田警察署にお願いして講習を行っています。

年間のうち5、8、12月には、活動強化月間として、それぞれの地区安全会議がその方針に沿って地域流に企画したいろいろな取組をしています。とりわけこの中では、活動がマンネリ化しないように、自治会連合会としては気をつけて推進しています。そして年1回ですが、防犯パトロールの推進大会を自治会連合会が中心となって各地区の安全会議に呼びかけ、進めています。

次に啓発・情報発信活動ですが、一つだけ申し上げると、年1回、小中学生を対象にして防犯のポスターコンクールを開催しています。その中で最優秀作品は自治会連合会の回覧板に掲載し、全市的に広めている活動を進めています。

もう一つは、磐田警察署の取組への参加です。その中には、「地域安全のつどい」の取組が年1回あります。市民、警察合同の年末特別警戒出陣式も行われていますが、私ども自主防犯活動隊としては積極的にその場に参加しています。



地区安全会議の防犯活動



こうした自治会連合会で決めた方針を基にして、それぞれの地区安全会議が「地域流」にやっている取組をご紹介します。まず、子どもの見守り活動です。この見守り活動は通学路、小学校の正門といったところで、挨拶を兼ねて声かけ運動をしています。防犯ボランティアの皆さんは、自分の好きな時間帯に、自分の好きな方法で、好きな場所で活動しています。犬の散歩をしながら通学路の見守り、農作業等をやりながら、横断歩道や登下校する子どもたちに会えば声かけをする。青パトで市内を巡

回中に子どもたちを見れば、そこで車を停めて声かけをすることもあります。また、夜間のパトロールですが、ボランティアの皆さんがパトロールベストや青色のライト等を持って、それぞれの地域の中で、安全面で不安な場所を中心として定期的にパトロール活動をしています。

青色防犯パトロール活動については、全市的に夜間と昼間、それぞれ取組を進めています。現在、青色防犯パトロール車として230台が登録されています。また、実施者証を取得者は1,483人になっています。

富士見町防犯会では、自分たちで防犯詰所を設置しました。この詰所は、静岡県の中では唯一の民間交番となっています。ここでは3チームが交替制で地域の青色防犯パトロールを行っているほか、1チームは防犯詰所に常駐し、住民の皆さんの声もここで聞く活動をしています。また、青パト活動で使用している車両は、地区の資源物回収の収益金で購入、維持管理を行っています。

啓発活動でも、市内のいろいろな場所に、地域の事情に合わせた地域流の防犯看板がたくさん立っています。例えば、磐田市は日系ブラジル人の方が多く住んでいるので、そういう地域では、日本語とポルトガル語を併記した看板を設置しています。

防犯看板以外でも、例えば、地域住民の中で防犯標語を募集し、いい標語はポルトガル語も入れながら各家庭に配布する、タイムリーに地域の防犯の取組状況、あるいは自治会連合会からの情報発信や警察からの情報等をそれぞれの地域に合った形で安全ニュースとして発行し、配布している地域もあります。

また、子どもたちに危険な行為、場所をなくすため、通



学路の点検をしています。地域によっては、街頭に付いている防犯灯を、青色防犯灯に換えていく取組も出てきています。

このような活動を通して、小学校の子ども達から感謝の集いを開催していただいた地区もあります。

活動成果と課題

自治会連合会による自主防犯活動が始まって6年になります。活動開始当時と比べて、磐田市内の犯罪認知件数は35%減少し、不審者情報についても41%減少することができました。活動を通して、犯罪抑止力が市内全域で向上した結果であると思います。

活動の成果の二つ目として、静岡県警察本部から「現役世代の参加促進を図るための環境づくり支援事業」の県実施団体として指定を受けました。また、平成22年には自治会連合会の取組に対して県警本部長から感謝状を授与したところです。

成果の三つ目は、自治会連合会が取り組んだことが全市的な活動になったこと、多くの人が参加することで、一人一人の活動の負担が軽減されて活動の持続性につながっていることです。加えて、防犯活動を通じて、お互いに顔の見える関係が地域の中で出来上がり、結果的には地域コミュニティ力の向上につながってきていると感じています。

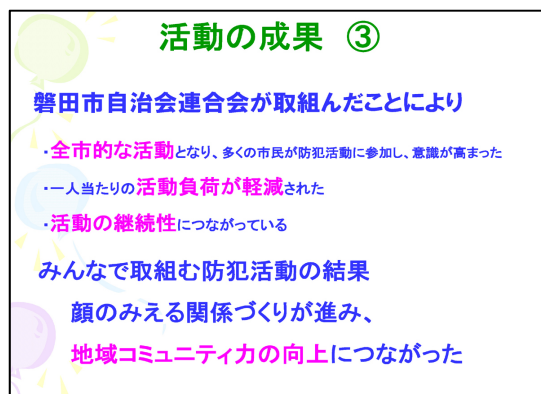
今後の課題です。安全・安心で住みよいまちづくりを目指して取り組んでいきますが、今以上に行政・磐田警察署、地域の様々な団体と連携を深め、地区安全会議の活動支援を続けていく必要があると感じています。特にその中でも現役世代の参加促進、併せて活動資金の確保に努めていきたいと考えています。

質疑応答

●質問 静岡県では平成6～7年にかけて、警察からの要請で、地区ごとに防犯リーダーとなる地域安全推進員として委嘱されている方が大勢います。そういう方との連携はどうなっているのか教えてください。

○回答 地域安全推進員の皆さんは地区安全会議の構成員になっていただいて、自治会連合会、あるいは他の団体との情報交換、活動の共有をして一緒にやっている状況です。地域安全推進員の皆さんは、防犯活動の知識と技術、経験も持っていますから、この安全会議の中では、例えば、地区内の徒歩パトロールでは、リーダー的な役割を担っていただき、一緒にやっている状況です。

●質問 通学路の点検の話がありました。私どもも通学路を総点検したいと思っています。通学路を点検して何か気づいたところ、あるいは点検に伴い改善したことがありましたら、お聞かせいただければあり



がたいと思います。

○回答 通学路の点検は地域の交番、警察署の方も一緒に入りながら、みんなで回ります。気づいた点として、道路に住宅内の植木が被ってしまい、歩行者の通行を妨げているという場所が多く見られました。こういったものは各自治会を通して、住民に草おろしを依頼している状況です。また、交通量から見て、通学路が適切かどうかという問題もあります。巡回の中に PTA 役員等入っていますので、子ども会役員等を含めて、通学路に相応しくない場所は小学校と調整を図ってもらうという取組もあります。また、例えば、交通標識が必要と思われる箇所の発見については、自治会から行政に要望を出してもらう。こういう活動をしているところです。